

## 令和５年度 兵庫教育大学附属小学校 学校経営計画及び学校評価

### １ めざす学校像等

#### ○ 学校像

先端的な教育環境のもとで、幼稚園、小学校、中学校の12 年間を通して、園児・児童・生徒、教職員、保護者が一体となって、地域社会と連携しながら、一人一人の子どもの学びと成長が保障される創造性豊かな学校をめざします。

#### ○ 子ども像

これからの社会において必要とされる情報活用能力を身に付けるとともに、主体的かつ対話的な教育活動を通して、心身ともにたくましく、未来を切り拓いていける知的創造力と寛容性を兼ね備えた、グローバル社会で活躍できる人間を育成します。

#### ○ 教員像

全国の自治体から附属学校園に派遣される教員が、附属学校教員としての自覚をもち、互いに敬意をもって高め合い、学校における働き方改革を踏まえながら、先進的で優れた教育実践に取り組み、地元自治体の中心的な教員として活躍できる資質・能力の向上に努めます。

**学校教育目標** ※「教員も児童も成長を実感できる学校」「研究と学校改善が一体となった学校」

「人間として生き抜く力を育てる」 ～夢に向かって挑戦し続ける人の育成～

「学ぶ」ことの大切さ、楽しさを知り、「学び」の本来の意義を理解し、生涯にわたって「学び」続ける力と確かな「人間力」子ども像の実現のために学校として大切にすること

- I 基礎となる学力
- II これを駆使してより深い学習を自ら求めていく探究心（学習力）
- III 豊かな感性
- IV 他者の立場で物事を考える思いやりの精神
- V 多くの人から愛される立ち居振る舞い

**学校運営目標** 校長として大事にしたい姿勢（教員の取組肯定感が低いことを踏まえ）

「教員も児童も成長を実感できる学校」「研究と学校改善が一体となった学校」

「伝統は革新の連続である」

- ・「人間として生きぬく力を育てる」学級づくり・学校づくりを学ぶ。  
学校経営、教科指導、生徒指導、STEAM教育、地域と共にある学校
- ・「子どもが最も大事、子どもに力（測れる力と測れない力）をつける」
- ・「地元に戻ってから活躍できる教職員をはぐくむ。」

### ２ 中期的目標（３年間程度）（伝統は革新の連続である）

#### １ 気持ちのそろった校内組織・教師集団づくり（３年目）

##### （１）管理職による的確なガバナンスと管理職を含む教職員間の関係づくり

学校運営における様々なルールの明確化と管理職の理念浸透

##### （２）教職員間が互いに助け合い、多様性を認め、協力して同僚性を高めること。

管理職、ミドルリーダー、学級担任、特定教諭、非常勤講師がそれぞれの責任を果たす体制づくり。校務分掌の不断の改善。積極的・意欲的で一体感のある教職員集団の構築をめざし、１年目の教員も含めて担任団や校務分掌から学校経営計画の実現に向けた改善策や新たな取り組みが、積極的・効果的に提案される学校風土を醸成する。

##### （３）児童に対する取組みの成果を意識する。

良い授業の結果として、児童の測れる学力の向上をも検証するため年度終わりに行う学力テストや質問紙調査等により検証し、自己の授業や学級経営を振り返り、授業改善やカリキュラム改善の参考とする。

（東京書籍の学力テスト12月及び全国学力学習状況調査の状況の分析検討）

#### ２ 大学との共同研究体制の確立

##### （１）「個別最適化」と「協働的な学び」の実現をめざし、「先進的」な授業改善に取り組む。キュビナドリル一層の活用。

①大学教員の指導を受けて、教科部として授業力の向上を図る。

②大学の協力を得て研究授業及び授業実践交流会の開催。地域の学校との交流の充実。小・中合同研究大会を工夫・実施する。

(2) 大学との共同研究の取組の推進

- ①森山教授と永田教授の協力による STEAM 教育と教科に関する研究の取組。インテル STEAMLAB0 を活用した取組。
- ②「理論と実践の融合」研究における STEAM 教育に関する共同研究に小中合同で取り組む。

3 安全・安心な学校づくり

(1) いじめの未然防止、早期の組織対応の徹底。

(2) 教科や特別活動、総合的な学習の時間等における様々な取組を通して相手の立場を考え、違いを認め合う児童集団を形成する。

(3) 発達段階に応じた授業規律、生活規律等の検討と統一した指導。

どの学年も赴任した先生と共に統一して指導できる指導ルールの明確化

(4) 長期欠席者の理由の明確化し、適切なアセスメントと対応。

(5) 児童や保護者への相談・支援体制確立。(チャレンジルームの適切な活用)

(6) 新型コロナウイルス等感染症への適切な対応の徹底と引き続き学校における怪我・事故の減少をめざす。

4 附属学校としての新しい文化の創造

(1) カリキュラムマネジメントの推進

- ①カーニバルとミュージカルを特別活動として位置付け、取組の整理を図る。
- ②総合的な学習の時間を STEAM 教育に一本化し探究学習の充実に努め、各教科との関連、転移等カリキュラムについて研究を進め、STEAM 教育を本校の魅力化の一つの柱とする。

(2) 働き方改革の推進

- ①全国の附属学校の課題である働き方改革の確立。

附属学校におけるミッションビジョンにおいて新たに働き方改革に努める趣旨が盛り込まれたことを踏まえること。

在校時間の適切な管理、時間外勤務の適切な取り扱い、教員の負担の公平化、会議の開始時間と終了時間の明示、短時間化の定着。休憩時間確保と勤務時間外の会議の原則禁止

- ②取組の継続・改善のため在籍3年を見越した校務分掌の改善検討と短期間に附属学校の教員としての基本が理解できる引継ぎ資料の作成。

- ③地元自治体の働き方改革のリーダーとなるタイムマネジメント能力獲得。

- ④新しい人事交流先との協定締結と計画的な拡大

(3) 学校運営協議会を立ち上げ、コミュニティ・スクールとなる。

コミュニティ・スクールとしてガバナンスを重視し、学校運営の安定性継続性を充実させる。さらに、学ぶ意欲がある地域の「教員の知の拠点」をめざす。附属学校ならではの効果的で意味あるコミュニティ・スクールの取組としての研究を推進する。

(4) 実地教育の改善・充実

附属学校任せになっている現状の改善、大学の重要なカリキュラムであり附属学校の本務である実地教育の一層の充実に努め、一層の DX 化も含めて充実した実地教育をめざす。

5 魅力的な学校づくりの推進のための5つの視点

(1) 校種間連携の推進

加東市を含め自治体では義務教育学校の設立が進む、一方でカリキュラムの一貫性等一貫教育を推進できる教員は自治体では不足しており、その育成は強く求められている。校長が小中で兼任となったことを最大限に生かし、特に小中間の連携を深め、人事異動等も含め、幼小中の一貫教育の具体的な取組推進とそれができる人材育成を進める。

(2) 新しい特別活動、学校行事の創造。(再掲) 4 (1)

(3) 知の森・アートの森基金事業の推進

STEAM教育とコミュニティ・スクールとして推進し、図書館の魅力化と地域開放、STEAMラボ等を活用し、児童だけでなく大学生や大学院生も関わった地域貢献の活動を検討する。

(4) 異文化理解教育、国際理解教育の推進

大学グローバル教育センター等との連携により、日常的に留学生との触れあいの機会や異文化理解教育、国際理解教育を推進し、世界で活躍できる土壌を児童期から醸成する。令和5年度にオンラインによる留学生の地元の子どもとの交流を設定し、令和6年度に児童の外国（フィンランドやオーストラリア等）への短期留学訪問を実施する準備を行う。

(5) 「教員養成の知の拠点化」推進

地元教育委員会の教科研究会等への参加や兵庫県教育委員会・研修センターとの連携に努め、本校を実践研修の場としての活用を進めることや、自治体単位で行われている研修や研究会を本校で開催する。その発信を通して、附属学校の存在価値を高め、新任教員、学部卒業生、実地学生、附属学校教員の資質向上に貢献する。(関連4 (3))

3 今年度の重点目標と具体的な教育取組

| 中期的目標                     | 今年度の重点目標                                                                                                             | 具体的な取組                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 評価指標                                                                                                                                                                                                                                                 | 自己評価と学校関係者評価<br>達成状況（5段階評価）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|---------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1<br>気持ちのそろった校内組織・教師集団づくり | (1)大学・管理職・教員の役割の明確化<br>(2)教員やPTAに対する管理職の理念浸透と管理職を含む同僚性の醸成<br><br>(3)教員の指導実態と子どもの学力実態の把握と改善                           | ①学則改正版の周知とそれに則った学校運営。<br>①理念浸透<br>保護者向け学校だよりの発刊<br>教職員向け校長通信の発刊。<br>・新設された副校長の活躍<br>・教職員の人事評価制度の活用<br>・教職員が管理職評価する制度<br>・教職員からの提言シートの実施<br>・ミドルリーダー等の新たな配置と成長を図る。<br>③学力テストを年1回東京書籍で行う。<br>教員がその間の指導状況を自覚する。                                                                                             | ①学長及び大学への適切な報告等、学則に沿った計画的な学校運営ができたか。<br><br>①学校だより(月1回以上)<br>校長通信(月1回以上)<br>・人事評価制度の適切な運用<br>・「職場アンケート」データの改善<br>職場内人間関係の肯定的評価の状況(R4年度69.2%)(目標70%以上)<br>困った時管理職に相談する状況(R4年度57.7%)(目標50%程度)<br>③教科担任制のもと、授業を担当した児童の学力状況<br>児童アンケートで教科が好きな率の向上(80%以上) | <b>達成状況 3（達成）</b><br>(1)学長及び大学への適切な報告等、学則に沿った計画的な学校運営ができた。<br>(2)学校だより、校長通信、人事評価制度の適切な運用により管理職の理念浸透がより進んだ。<br>・職場内人間関係の肯定的評価状況(R5年度42.9%)<br>困った時管理職に相談する状況(R5年度71.4%)<br>(3)児童アンケートは実施しなかった。<br>全国学力テスト平均正答率は、国語63(67.4)、算数67(62.7)で国語力が課題であった。12月の学力テストでは、同一集団における学力全国比の向上は国2.4.5年、社4.5.6学年、算3.4.5.6年、理4.5.6年等、13/16で向上した。                                                                 |
| 2<br>大学との共同研究体制の確立        | (1)「個別最適化」と「協働的な学び」の実現をめざし、「先進的」な授業改善に取り組む。<br><br>(2)大学との共同研究の取組                                                    | ①個別最適化の一助として「キュビナドリル」有効活用<br>②授業実践交流会、小中合同の研究発表大会の工夫と実施<br><br>①完成したSTEAMラボを活用した取組の推進。<br>②「理論と実践の融合」研究を活用し、森山教授・永田教授とSTEAM教育の小中共同研究を行う。                                                                                                                                                                 | ①キュビナドリルの活用状況。<br>各学年での定期的・計画的な活用実施<br>②授業実践交流会・合同研究発表会の実施。地域教員との交流状況や参加状況<br><br>①STEAM研究の広がりとし進展拡大。指定された取り組みができたか。<br>②共同研究の成果結果                                                                                                                   | <b>達成状況 4（予定以上）</b><br>(1)キュビナドリルの活用状況。<br>授業実践交流会・合同研究発表会の実施。地域教員との交流状況や参加状況拡大<br><b>達成状況 3（達成）</b><br>(2)STEAM研究の広がりとし進展拡大。小中合同STEAM教育をテーマに研究発表実施と著書作成中<br>②令和6年度研究主任がアメリカへの視察に参加                                                                                                                                                                                                          |
| 3<br>安全・安心な学校づくり          | (1)いじめの未然防止、早期対応の徹底<br><br>(2)互いを認め合う児童の集団づくり<br><br>(3)授業規律、生活規律等の検討と統一<br><br>(4)相談・支援体制の確立。居住地自治体、警察等関係機関との的確な連携。 | ①いじめの未然防止、早期の組織対応の徹底。<br><br>①教科や特別活動、総合的な学習の時間等における様々な取組を通して相手の立場を考え、違いを認め合う児童集団を形成する。<br>①発達段階に応じた授業規律、生活規律等の徹底<br>②校内の事故・けがを減少させる。<br>①長欠児童や特別支援の適切なアセスメントと対応の充実。児童や保護者の相談・支援体制を確立。子ども家庭センターや居住地自治体、警察等関係機関とも的確に連携する。                                                                                 | ①的確な「校内いじめ対策会議」の開催<br>生徒指導への情報集約→管理職への件数<br><br>①学校行事等特別活動の取組目標に学級集団づくりの観点を入れる。<br><br>①附属小のルールが徹底できたか。<br>②病院受診が必要な校内でのけがの件数<br>R2年度69件、R3年度40件<br>R4年度28件<br>①SCとの的確な連携状況<br>②不登校児童と配慮を要する児童の対応状況の把握、個別の支援計画の作成状況                                  | <b>達成状況 3（達成）だが要改善</b><br>(1)校内いじめ対策会議による早期対応ができた。<br>(2)いじめ重大事態が発生した5年生を中心に集団づくりに努めた。<br>保護者88% 職員71%<br>(3)統一ルールの徹底に努め、必要性について教員の意識の共有ができた。<br>病院受診が必要な校内けがの件数<br>R5年度41件<br>ケガによる保健室来室児童数<br>R2年度1758件、R3年度1633件<br>R4年度1494件 R5年度1356件<br>(4)校長不在時もSCとの的確な連携ができた。相談しやすい学校か<br>保護者89% 職員84%                                                                                               |
| 4<br>附属学校としての新しい文化の創造     | (1)カリキュラムマネジメントの推進<br><br>(2)働き方改革の推進<br><br>(3)学校運営協議会制度の運用<br><br>(4)実地教育の改善・充実                                    | ①カーニバルとミュージカルを特別活動として位置付け、取組の整理を図る。<br>②総合的な学習の時間をSTEAM教育に一本化し研究を進め、STEAM教育を本校の魅力化の一つの柱とする。<br>ミッションビジョンに新たに働き方改革の盛り込まれたことを踏まえ<br>①在校時間の適切な管理、負担の公平化<br>②時間外勤務の適切な手続<br>③引継ぎ用サポートブックの作成<br><br>コミュニティ・スクールとして、地域の「教員の知の拠点」をめざす。附属学校ならではの効果的なコミュニティ・スクールに関する取組を推進する。<br><br>①教育実習総合センターと具体策の検討、さらなる改善策を検討 | ①児童保護者教員の肯定的評価<br><br>②STEAM教育の推進状況<br><br>①時間外勤務手続きの改善状況<br>②サポートブックの作成状況<br><br>①学校運営協議会の開催回数<br>②コミュニティ・スクールによって新しく生まれた取組状況<br><br>①実地教育学生の実習後のアンケート結果の改善状況                                                                                       | <b>達成状況 2（要改善）</b><br>(1)肯定的評価は保護者90%で高いものがあったが、教員は77%で評価が低い。特に①そう思うが29%と少なく再検討した。STEAM教育に学校全体として取り組んだが、まだ十分ではない。<br><b>達成状況 3（達成）</b><br>(2)管理職のみならず、学年主任や主幹教諭などミドルリーダーが積極的に関与する方法に改善した。<br>サポートブック作成は取りやめた。<br><b>達成状況 3（達成）</b><br>(3)学校運営協議会を設置し3回会議を開催。積極的に運用できた。地域との人事交流のようなこともできた。<br><b>達成状況 4（予定以上）</b><br>(4)実地教育学生の実習後のアンケート「迷っていたがなりたくなった」<br>R3年度 76.3% R4年度72.7%<br>R5年度 82.1% |

|                                                                                                            |                                                                     |                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                         |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5<br>魅<br>力<br>的<br>な<br>学<br>校<br>づ<br>く<br>り<br>の<br>推<br>進<br>の<br>た<br>め<br>の<br>5<br>つ<br>の<br>視<br>点 | (1) 校種間連携の推進                                                        | ①校長が小中で兼任となったことを最大限に生かし、小中合同の教科部会、研究発表大会、附属間の人事交流、共同研究等の具体的な取組推進。                                                                                                  | ①小中合同教科部会<br>②小中合同研究発表大会<br>③学校園間での教員の人事交流<br>④幼小中合同共同研究 開催状況等                                                                    | <b>達成状況 4（予定以上）</b><br>(1)学校安全事業や1月の小中合同研究発表大会開催等を通して、より一層連携が進んだ。（別紙参照）<br>小学校と中学校で人事交流を実施した。                                                                           |
|                                                                                                            | (2) 新しい特別活動、学校行事の創造。（再掲）4（1）                                        | ①カーニバルとミュージカルを特別活動として位置付け、取組の整理を図る。<br>②総合的な学習の時間をSTEAM教育に一本化し研究を進め、STEAM教育を本校の魅力化の一つの柱とする。STEAM教育とコミュニティ・スクールとして推進                                                | ①児童保護者教員の肯定的評価<br><br>②STEAM教育の推進状況                                                                                               | <b>達成状況 2（要改善）</b><br>(2)（再掲）4（1）                                                                                                                                       |
|                                                                                                            | (3) 知の森・アートの森基金事業の推進                                                |                                                                                                                                                                    | 図書館の魅力化と地域開放、STEAMラボ等を活用した取り組みの実施状況                                                                                               | <b>達成状況 3（達成）</b><br>(3)図書館の開放は、夏休み中に5日間の開放、1日平均20名約100名の参加があった。中庭整備の設計図ができた。                                                                                           |
|                                                                                                            | (4) 異文化理解教育、国際理解教育の推進                                               | 留学生との触れあい、オンラインによる外国児童との交流（カンボジア等）児童・生徒の短期留学訪問制度の準備。（フィンランド・オーストラリア等）                                                                                              | ①留学生等との交流状況<br>②短期留学訪問制度の構築できたか                                                                                                   | <b>達成状況 4（予定以上）</b><br>(4)カンボジアの教員の来訪、児童とのオンライン交流。フィンランドの児童との交流ができた。フィンランドとの交流は計画中。                                                                                     |
|                                                                                                            | (5)「教員養成の知の拠点化」推進<br><br>(6)その他<br>入試制度の改善<br><br>ミドルリーダーが成長する学校づくり | 附属学校の存在価値として本校を実践研修の場としての活用を進め発信する。（関連4（3））<br><br>①石倉教授と連携した入試問題改善の取組と就学前施設との連携<br>②附属学校園間の望ましい連絡進学<br>の検討。<br>③指導主事や、主幹教諭等で活躍できるミドルリーダーづくり<br>④自治体指導主事・管理職選考受験推進 | ①本校を会場とした研修会等の開催状況<br><br><br><br>①入試問題の改善状況<br>②入学準備委員会の運用状況<br>連絡進学の原則の検討状況<br><br>③大学院進学希望者の増加と在籍状況<br>④主幹教諭の配置状況、指導主事選考の受験状況等 | <b>達成状況 3（達成）</b><br>(5)地域の公立教員向けの特別支援教育のセミナー開催や研究大会の講演会の参加人数が大幅に増加した。<br><b>達成状況 3（達成）</b><br>(6)入試問題改善、入学準備委員会の運用により円滑な1年生運営につながった。連絡進学における不要な書類の廃止。指導主事選考、教頭選考受験者2名。 |

#### 4 第3者評価の総評

| 浅野先生と学校経営コースによる                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1. 学習指導面（現状と課題、改善の方策）</p> <p>① 現状と課題：</p> <p>各学級の授業の様子を見ると、素直で活発な児童が多く、積極的に発言する児童が見られた。児童同士で教え合う雰囲気もあり、中には質の高い話し合いが見られた。また、落ち着いて授業に取り組む雰囲気が作られており、ある低学年のクラスでは担任が教室に不在になる時間があっても、児童は熱心に課題に取り組んでいた。このような様子が見られるのは、先生方の深い教材研究と、ICT機器の活用や児童の授業形態の工夫などの学習ツールや環境にも配慮した高い授業力によるものだと考えられる。</p> <p>しかし、学力の高い児童だけの話し合いに終始し、できない、分からない児童がそのまま静かに時間の経過を待っている姿や、他の児童の話を聴いていない、関心のない児童も見られた。学力テストでは上位と下位の差が大きいという実態もある。これは、分かる児童だけで授業が進み、それ以外の児童の考えを聞き合う機会がなかったり、困り感のある児童への支援が不十分であったりすることが考えられる。</p> <p>② 改善の方策</p> <p>学校教育目標の中に、「基礎となる学力」という項目があるように、すべての児童の学びを保障する取り組みが必要である。改善に向けて、まず、児童の実態把握である。各児童がどれだけの力を持っているのか詳しく把握したり教員同士で情報交換する機会を持ったりすることで、児童をより詳しく分析でき、指導に反映できると考える。次に、どの学力層も取り組める授業改善である。例えばグループ学習の場を増やすなど、多くの児童が自分の考えを発表する機会を作ること。また、疑問点をいいやすい授業の雰囲気をつくること。よい授業とはどんな授業か、教員間で共有すること。これらが授業改善のきっかけの一つになるのではないかと考える。また、学習支援員などとの協働が進めば、これらの改善がより進むと推察する。</p> <p>2. 生徒指導・学級経営面（現状と課題、改善の方策）</p> <p>① 現状と課題：</p> <p>昨年度、いじめ事案という生徒指導上の課題があったということだったが、どの学級の雰囲気も落ち着いているように感じられた。また、休憩時間は友達と元気に遊ぶ児童が多く見られ、児童の関係性が概ね良好のように見てとれた。それは、いじめ事案に対して、校長のリーダーシップのもと学校として適切な対応がなされたことや、それを契機に学年団で児童の様子について連絡を密にして、問題に素早く対応できるように改善できたことが大きい。また、1年生が入学する前に出身の幼稚園や保育園等と児童の情報収集をしたことで、1年生の安定した学級経営につながったことも要因として挙げられる。すべての学年において、時間を守って行動したり、朝、元気なあいさつをしたりできる児童が多かった。これは、学校が授業、生活規律を徹底するという方針を児童に示し、浸透してきたことの現れであると同える。</p> <p>一方で、楽器、学習ファイル、iPad、図書等の学習用具が所定の場所からはみ出ていたり、廊下の私物の整理整頓が為されていなかったりするところが多く見られた。また、廊下を走る、下足場での上履きと下履きの履き替えといったルールが徹底されていない児童が見られた。これは、例えば廊下を走る児童に対しての指導が教職員間で差があること、教室の掲示物の貼り方や整理整頓への意識の違いなど、教職員間で指導すべきことや生活上の問題意識が統一されていないことが考えられる。</p> <p>② 改善の方策：</p> <p>いじめの重大事案から学び、二度と重大事案を起こさぬように各学年の教職員でのコミュニケーションを一層充実させ、連携を図ることが重要</p> |

である。特に、教科担任制が中心となる高学年ほど、教職員の連携は大切にしていくなすべきである。また、もう一度きまりの意味もふまえて教職員で再度指導すべきことの統一を図り、同じ場面で同じ指導ができる教職員へ変わることが大切であると言える。また、教職員が教室環境やものをどのように扱うかは、児童に隠れたカリキュラムとして伝わる。教職員がモデルとなる行動を取ることも重要である。さらに、特別活動の視点から、児童が生活におけることに対して問題意識を持ち、どう解決するか主体的に判断する機会を持つなど、児童に委ねる場面も必要である。

3. システム・運営面（現状と課題、改善の方策）

① 現状と課題

教師の授業力や連携が、以下の要因により高まっており、職員の働き方を意識しながらも、効率的な運営に向けた改善がなされている。

- ・適材適所の校内人事配置。
- ・必要ない分掌の整理。
- ・学校課題を解決するために必要な分掌の創設といった組織の改革。
- ・職員会議の位置づけや企画から提案までの仕組みの変更。

また、学校目標の実現に向けて、職員との熟議をしっかりと行い、その中で共有されたことで、職員が同じ方向に向かうよりどころとなり、職員の組織の一員であるという自覚も高まっている。さらに、多様な特性、能力のある児童を広く受け入れている。この実態は、公立小学校の実態に近く、実践を発信する上ではより強い説得力を持つことができる。

その一方で、すべての児童にとってよりよい授業が成立できるための土台となる、学級経営も求められる。そのためには、これまで相対的に重視されなかった特別支援教育や特別活動にも力を入れることが望まれる。

② 改善の方策

教科指導以外に個別の配慮を必要とする児童への対応や特別活動の指導等を得意とする教員を入れていく必要があるのではないだろうか。今年度より、小中の連携や接続を重視した学校経営により、今後、人事交流や情報の共有化が図られ、9年間を見据えた教育の展開が始まった。STEAM教育をはじめとした、先験的な取り組みで、地域の学校の実践をリードする附属小学校としての役割を期待したい。